

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成26年11月7日(金) 公開授業 I

対象 2年1組 男13名 女17名 計30名

指導者 蛭川 ゆかり

1 単元名 音読げきをしよう 「お手紙」

2 単元の目標

第1学年及び第2学年目標

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

音読劇をすることを通し、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

3 単元の評価規準

| 観点 | B：おおむね満足できる |
|---------------------|--|
| 国語への 関心・意欲・態度 | 音読劇をするという目的をもち、登場人物の行動や気持ちを進んで考え、工夫して表そうとしている。 |
| 読む能力 | 行動や会話から場面の様子を読み取り、二人の気持ちについて想像を広げながら音読している。(ウ) |
| 言語についての 知識・理解・技能 | 文の中における主語と述語との関係に注意している。(イ(ウ)) |

4 単元について

(1) 児童について

児童は、これまでに「ふきのとう」で、場面の様子について、人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読む学習を行ってきた。グループに分かれて場面毎に音読の仕方を話し合い、役に分かれて音読する活動を行うことで、物語の世界に浸り、内容を理解していく学習に意欲的に取り組んだ。さらに「スイミー」では、主人公スイミーの行動や会話に着目して内容を読み取り、自分の思いや考えをまとめるという活動も経験した。

これらの学習を通して、登場人物の行動や会話を手がかりにして場面の様子を読み取ろうとする態度が育った。しかし、文章の大体はとらえられるものの、部分的な読みに終始したり、叙述から離れた想像をしたりする児童も少なくなく、根拠となる叙述をもとにしたり、場面を結び付けて展開を予想したりして読む力は、まだ十分といえない。

音読については、声の大きさや速さなどを工夫して読むことを楽しみ、友だちと聞き合っよさを認め合うことができた。しかし、読み取った内容を反映させながら、相手を意識して音読する力を培うことが課題である。

これらのことから、本単元において、叙述に沿って場面の様子を読む力や、読み取ったことをもとに音読を工夫する力を伸ばす手立てが必要と考える。

(2) 教材について

本教材は、アーノルド＝ローベル作「ふたりはなかよし」シリーズに収められている一編であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。主な登場人物であるがまがえるくんとかえるくんの二人が、お手紙を通して互いが相手のことを大切に思っていることを確かめ合う、心温まる内容である。

登場人物が少なく、会話文が豊富なので、人物同士の関係が把握しやすく、「がまくん」「かえるくん」に寄り添って想像を広げることができる。また、時間や場所の推移に応じて場面が構成されているため、登場人物の心情や行動の変化を把握しやすい。さらに、挿絵は作者自身が描いたもので、その一枚一枚に登場人物の心情が如実に表れており、文章と照らし合わせることで、登場人物の心情の変化をより分かりやすく読み取ることができる。

このように本教材は、登場人物の会話や行動をもとに想像を広げながら場面の様子を読み取り、音読劇をするという学習に適した教材と考える。

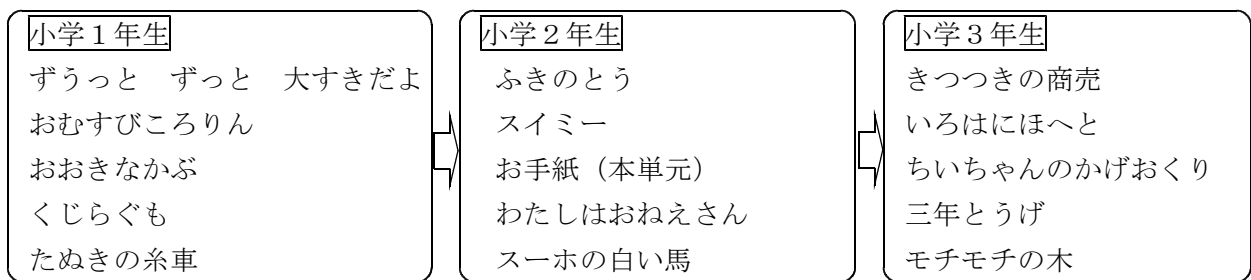
(3) 指導について

本単元では、児童に、登場人物の会話や行動をもとに、場面の様子について想像を広げながら読む力を身に付けさせるため、単元の終末にこの教材による音読劇を行うという言語活動を設定する。

登場人物になりきって音読するということは、2年生の児童にとって楽しく意欲の喚起を図ることのできる活動である。また、音声化することによって書かれている言葉を豊かにイメージしたり、互いの音読を聞き合っ、なぜそのように音読したのか根拠を明らかにした交流をしたりすることができる。そのことから、音読劇という言語活動は、読む力を付けさせるのに適した言語活動であるといえる。

実際の授業の中では、少人数での役割読みを段階を追って毎時間取り入れていく。その中で、登場人物の会話や行動に着目させ、場面の様子や登場人物の心情を読み取らせたい。そして、各場面の読み取りが、単元終末に位置付けている音読劇へとつながるようにしたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画 (12時間扱い)

- | | |
|--|---------------|
| (1) 単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 並行読書を始める。 | 1時間 |
| (2) あらすじをつかみ、心に残った場面を交流する。 | 1時間 |
| (3) 音読劇をするために、2人が仲良しと感じるところに気を付けながら 場面の内容を読み取る。 | 4時間 (本時4 / 4) |
| (4) 発表の計画を立て、音読劇の会をする。 | 3時間 |
| (5) アーノルド＝ローベルの他の作品を選び、音読劇で紹介し合う。 | 2時間 |
| (6) 学習をふりかえる。 | 1時間 |

7 本時について

(1) 目標

二人の言動からお手紙によって心が通い合う様子を読み取り、気持ちを想像しながら工夫して音読することができる。 <読む能力>

(2) 「自分の考えをもつ **自**」「互いの考えを交流する **交**」「互いのよさに気づく **気**」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面は、課題を解決するため会話文から2人の気持ちを考えて音読の工夫をする場面である。また、グループ学習や全体交流を通して「互いの考えを交流する」「互いのよさに気づく」ことができる。

(3) 展開

| 段階 | 学習活動 | 場面 | ○指導上の留意点 ●評価の観点 (方法) |
|----------------------|--|--|---|
| 導 入 5 分 | 1 前時の学習を想起する。 | | ○学習計画の拡大掲示物を用い、前時までの読み取りで分かったことを振り返らせる。 |
| | 2 本時の学習課題を把握する。 | | |
| | 2人がなかよしだと分かるようにくふうして音読しよう。 | | |
| | 3 課題解決の見通しをもつ。 | | ○気持ちは、会話や行動、挿絵から想像するという視点を確かめる。 ○「二人とも、とても幸せな気持ちで、そこにすわっていました。」に着目させ、一場面と変わったことを確かめる。 |
| 展 開 | 4 課題を解決する。 (1) 場面を音読する。 (2) 二人のやりとりを整理、確認する。 (3) 音読を工夫する。 ・一人で考える。 ・グループで考える。 | 自 交 | ○がまくんとかえるくんが仲良しだと感じるところに気を付けて音読させる。 ○がまくんとかえるくんの会話を順に追いながら、二人が次第に幸せな気持ちになっていく様子をとらえる。 ○ワークシートを使い、仲良しだと思う部分にサイドラインを引かせる。 ○二人の気持ちを表すために、読みの速さ、間のとり方、声の強弱や簡単な動作化を工夫しながら読むことを確認する。 |
| | 5 音読の工夫をもとに、二人の気持ちを考える。 ・全体で交流する。 | 気 | ○工夫しているグループの音読を紹介する。二人の気持ちの変化をどのように表現したかを聞き合い、その理由を話し合う。 ○がまくんが、自分に対するかえるくんの気持ちを知り、とてもうれしい気持ちになったことをおさえる。 |

| | | |
|------|---|---|
| 35分 | | <p>○手紙の中のどの表現ががまくんにとってうれしかったのかを考えさせる。また、かえるくんまで幸せな気持ちになったのはなぜなのか考えさせ、二人が親友であることを確認できたことが二人の幸せにつながったのだと理解できるようにする。</p> <p>●二人の気持ちの変化について、行動や会話を手がかりにして読み取り、それを生かしながら音読している。(発表、ワークシート)</p> |
| 終末5分 | <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p> | <p>○二人の気持ちの変化を読み取って音読したことを評価し、次時からの音読劇の会に向けての学習意欲を高める。</p> |

(4) 板書計画

| | | |
|---|---|---|
| <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div> <p>挿絵</p> | <p>「ああ。」 「とても いいお手紙だ。」</p> <hr style="width: 50%; margin: 10px auto;"/> <p>親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。</p> | <p style="text-align: center;">音読げきをしよう</p> <p style="text-align: center;">お手紙</p> <p style="text-align: center;">アーノルド・ローベル作 絵</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>二人がなかよしだと分かるようにくふうして音読しよう。</p> </div> |
|---|---|---|

ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。